助産師のなり手確保へ

命の誕生支える

看護協会稚内支部 高校生対象に1日体験

北海道看護協会稚内支部では13日、市立稚内病院で1日助産師体験を実施。稚内、稚内大谷、利尻の各高校から13人が参加し、助産師の仕事に興味を持ち、将来について考える貴重な機会にした。また、助産師の担い手確保を進める市立稚内病院では、地域医療を共に支える仲間として高校生達の就職に期待を込めた。（梅津眞二）

5月5日の国際助産師の日の一環。日頃の業務や医療に親しみを感じてもらい、高校生の職業選択や将来的な医療スタッフの確保にと毎年恒例。先月9日には1日看護師体験を実施している。

看護協会の横澤恵支部長が「助産師は命の誕生という人生の最もドラマチックで感動的な瞬間に立ち会い、家族の未来を支える尊い仕事。現場の緊張感や先輩達の姿を間近で見て、新しい命と家族に寄り添う職業の魅力、奥深さを感じ取って頂きたい」などと挨拶。

このあと、産婦人科外来や病棟を見学。赤ちゃんを間近で観察するなど医療現場ならではの内容。胎盤にも触れ、生命の神秘などを感じていた。スタッフは「仕事が忙しくても赤ちゃんの可愛らしさに癒される。細かく観察し、母子の安全管理に努めています」と伝えた。

高校生の1日助産師体験（赤ちゃんの人形で抱っこ）

稚内高校普通科3年の石川ゆなさん(17)は「将来は助産師志望です。母が出産の時に助産師さんにサポートしてもらった話を聞いて良い職業と思いました」と話した。

市立稚内病院の助産師の体制は、正職員や派遣職員、パートなどを含め11人。中には定年退職後に勤める人もいるため、夜勤では少人数体制になることもあり、状況によって現場が慌ただしくなる。スタッフの1人は「これからの地域医療を担う若い助産師が増えていってほしい。人材確保に繋げることが出来れば」と現状を語った。

気象観測を身近に

"ラジオゾンデ"夜に見学

稚内地方気象台では12日、稚内港湾合同庁舎で夜の気象台（観測）のはれるんが登場するなど時刻に打ち上げるため人が来場。気象庁のマスコットキャラクター打ち上げた。

世界800か所と同球を見守った。

3人姉妹と父母の家族連れは「1番見たかったのはお父さん」と話し当のお父さんは「気球の正体は何か、長年の疑問が解決してすっきりしました」と見学

働く車に興味

鈴蘭幼稚園 錦産業で重機など見学

稚内鈴蘭幼稚園・保育園の年少児36人が12日、社会見学で錦産業㈱を訪れ、重機に親しんだ。

社会見学は地域の仕事を知ることを目的に毎年実施。まず会議室で重機や仕事の様子をDVDで鑑賞。ブルドーザーやダンプカー、グレーダーなどの役割を説明したほか、排雪作業の様子など、普段どのような仕事をしているのか紹介した。

社屋裏の敷地内には除雪などに使うミニショベルなどを展示。園児達は運転席でハンドルを握ったり、バケット部分に並んで記念撮影するなどし大喜び。パワーショベルのデモンストレーションではバケットでカラーコーンを掴み、アームを高く上げるなど動作を実演。園児達は瞬を締かせ、最後に車両が何台あるかなど質問し、働く車に親しみを寄せた。（千葉大輔）

バケット部分に座る園児達

稚児さん白象引く

量徳寺 花まつり お釈迦様の誕生祝う

量徳寺では13日、同寺で花まつり。大谷幼稚園・オアシス保育園の園児40人が参加。お稚児さんが誕生仏に甘茶をかけ、お釈迦様の誕生を祝った。

前日に園児達が会場の壁にお釈迦様を描いた絵を飾ったほか、花御堂と出入口を手作りの紙花で飾り付けるなどし準備を手伝った。

当日は保護者らも参加し、量徳寺住職の吉田幸麿園長が園児達にお釈迦様に関する絵本を読み聞かせし「お友達と助け合い、支え合って生きてほしい」と呼び掛けた。このあと子ども達が誕生仏に花を捧げ、甘茶をかけて手を合わせた。

園庭では白象行進で園児達が山車を引っ張った。終了後は稚内大谷高校吹奏楽部が園児達に向け、コンサートを行った。（東賢人）

量徳寺の花まつり

豆腐製品や弁当販売会

稚内信金東・南支店

稚内信用金庫では、15日午前9時から東支店で豆腐製品販売会、午前10時30分から南支店で弁当販売会を開く。

東支店は沢野豆腐店による豆腐や油揚げ、豆乳、こんにゃく、豆腐スイーツなど。南支店は中央食堂のイベント限定の弁当を販売し売り切れ次第終了する。

15日午前8時45分から富岡支店と枝幸支店、午前10時から天塩支店で振り込め詐欺被害防止啓発運動を行う。

電気工事業の合同安全衛生推進大会

労災防止誓う

電気工事業 安全衛生推進大会

㈱北海電工稚内・浜頓別営業所と北部電気工事業協同組合稚内・頓別支部では12日、総合文化センターで安全衛生推進大会を開き、約120人が労働災害防止の意識を高めた。

永年勤続表彰のあと、北部電気工事業協同組合の奈良康弘理事長が「6月からもいよいよ大会が安全取り組みの3置づけ、1故・無災害と挨拶。北ーク㈱道北今井雅人配辞のあと、止に長年勤気㈱が安全表彰、安全㈱道北電気道正人さん標語表彰に北電ネッ道北統括支悟配電部配ープ副長に災害防止に講話のあと㈱の加藤総

盛会に感謝込め市に寄付金

最北のど自慢大会

稚内北斗ライオンズクラブさいほく支部と最北のど自慢実行委員会では12日、稚内市に第4回最北のど自慢大会の盛会御礼として5万円を寄付した。

生バンドで歌う機会を通して街に元気を届けようと今年で4回目となり、市内外から28～85歳の18人が出演。川村満支部長と泉絵里子実行委員所を訪れ、に手渡した。工藤市長は上げてくれうございまし、泉実